

レジューメのつくり方

内川 隆文

自己紹介

名前 内川 隆文（うちかわ たかふみ）

→本学博士後期課程在学中

専門は1930年日本の経済史・電力史

趣味はドローンで航空撮影

レジュメとはなにか

レジュメの目的

1：情報の整理

要約をするなかで自分の知識や情報が整理される

2：コミュニケーションのツール

自分⇔先生

⇔クラスメイト

レジュメの種類

1：書評型

書評とは、誰かの著作物を要約し、評価すること
ゼミでの輪読の授業で使うことが多い

▶今回はコッチ！

2：発表型

自分の研究を発表する際に使うことが多い
EX) 卒論

レジユメの基本的な様式

基本様式

1：日付

2：授業名

3：報告者の氏名

4：タイトル

5：数字やスペースは半角

6：ページの挿入

→レジュメ自体および引用先のページ数

2019年X月Y日

○曜日 3 限 須藤ゼミ

外大 太郎(国際社会学部2年英語専攻)

第2章 「文化的根源」

(ベネディクト・アンダーソン,白石 隆ほか訳 『想像の共同体』 NTT出版,1997)

レジユメの構成

(書評型) レジューメの構成

1：要約

2：自分なりのコメント・疑問点

→単なる感想に陥らないようにする

→具体的に、かつ自分の観点を明確に！

レジュメに求められること

簡潔性

簡潔性とは？

1: 情報量

- なるべく重要な情報に絞って記載
- 詳細は口頭で述べれば良い

※レジュメを読書ノートにしてはならない！

2: 見やすさ

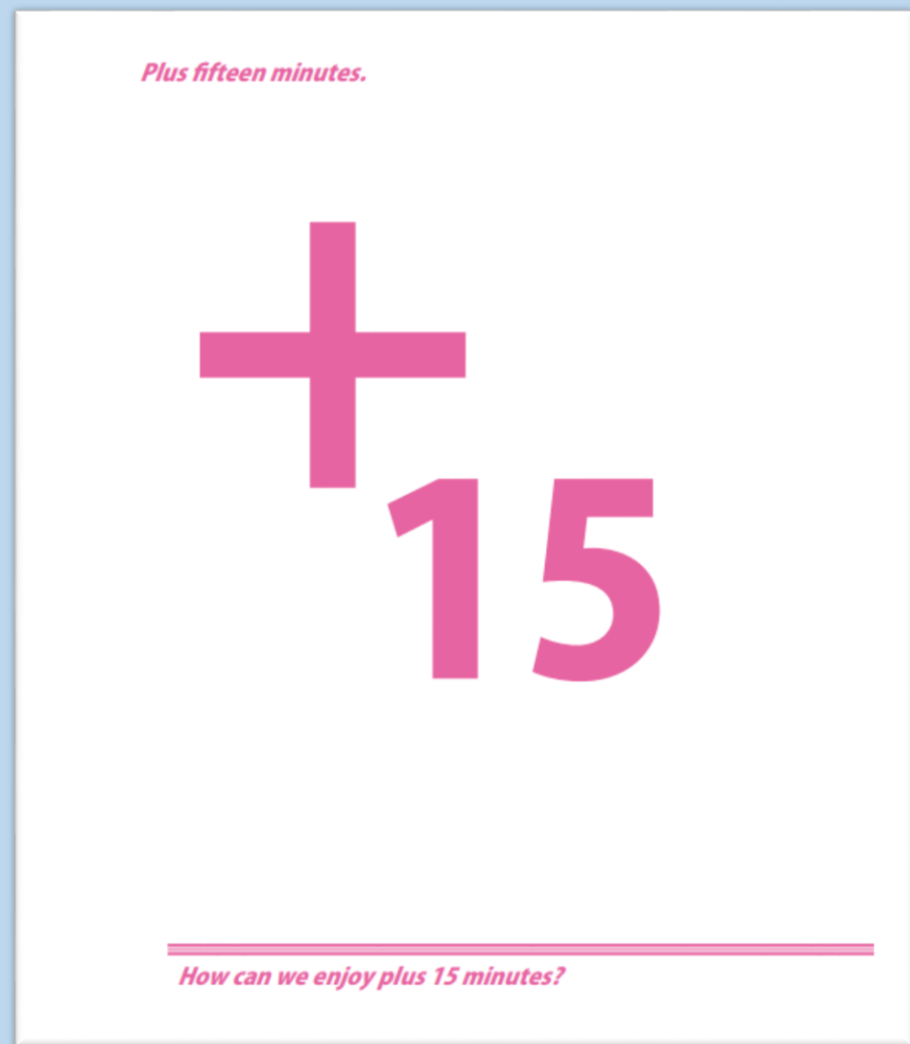
- 記号を効果的に使う
- なるべくワンセンテンスとして完結させる

時間配分

レジュメにおける時間配分とは？

人間が人の話に集中できる時間
→わずか15～20分

東京大学 KOMEX 『+15』 (2015)



レジュメにおける時間配分

自分の持ち時間を事前に把握する

質疑応答の時間を必ず設ける

ここまでまとめると・・・

レジュメとはコミュニケーションツールである

そのためには、簡潔性と時間配分が必要

基本的な様式

→日付,報告者名,授業名,タイトル,ページ数の挿入

基本的な構成:

→① 要約 ② コメント・分析

実例 その 1

<引用元>

ベネディクト・アンダーソン著 白石さや・白石 隆訳『増補 想像の共同体』（NTT出版,1997年）,82頁

しかし、実のところ、ラテン語の秘儀化、宗教改革、行政俗語の偶然的発展は、我々の論旨からすれば、主として消極的意義、つまり、これらの要因がラテン語を王座から追放し、キリスト教世界という聖なる共同体の腐食に貢献したという意義をもつだけのことである。新しい想像の国民共同体は、これら要因のいずれか、いやそれどころか、すべての要因が欠落していたとしても、なお出現したであろうとすら考えられる。積極的な意味で、この新しい共同体の想像を可能にしたのは、生産システムと生産関係（資本主義）、コミュニケーション技術（印刷・出版）そして人間の言語的多様性という宿命性のあいだの、なかば偶然の、しかし、爆発的な相互作用であった。

<引用元>

ベネディクト・アンダーソン著 白石さや・白石 隆訳 『増補 想像の共同体』(NTT出版,1997年),82頁

- ・ラテン語の秘儀化、宗教改革、行政俗語の偶然的発展の消極的意義(82頁)

1) ラテン語を玉座から追放

2) キリスト教世界という聖なる共同体の腐食に貢献

体言止め

ワンセンテンス

箇条書き

- ・新しい想像の国民共同体は仮にこれらの要因全てがなくても出現した(82頁)

1) 生産システムと生産関係 (資本主義)

2) コミュニケーション技術 (印刷・出版)

3) 人間の言語的多様性という宿命性

→これらの偶然・爆発的な相互作用が新しい共同体の想像を可能にした

「つまり」の意味 (相互関係の図解)

実例 その 2

どこかおかしいレジュメの
まちがい探し

まずは次の論文を読みます

「小口経済 庶民が支えるサリサリ・ストア」
大野拓司編『現代フィリピンを知るための60
章』明石書店,2001年)

約 10分論文を読みましょう

周りの人と相談してもOK

おかしい箇所を
さがしましょう

1

基本情報の挿入

→ 日付, 授業名, 氏名

2

頁数の挿入

3

英数字は半角

4

記号は統一的かつ
シンプルに用いる

6

(なるべく)

ワンセンテンスにおさめる

6

ワンセンテンスに収める為の

体言止め

6

体言止めの使用例

サリサリ・ストアが庶民に支持されている経済的理由以外に、次のような社会的理由をあげることができる(本文210頁,レジュメ2頁)



サリサリ・ストアが庶民に支持されている経済外的理由

※本文の意味を損なわない程度で文章を変更（要約）してもよい

7

コメント・考察は
具体的に

おわりに

教授や学生ごと、あるいは分野毎に異なることが多い

ただ、コミュニケーションツールとしてのレジューメの在り方は共通

参考文献

※WEB閲覧日は全て2019年5月21日現在

東京外国語大学 小川英文研究室HP 「論文リテラシー」

(<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/kidlat/Thesis%20Writing/thesis.htm>)

東京大学 大学院総合文化研究科・教養学部 附属共用高度化機構 アクティブラーニング部門 『+15』

(<http://dalt.c.u-tokyo.ac.jp/wpcontent/uploads/2016/08/plus15minutes.pdf>)

「レジュメの作り方」(立教大学編 『MASTER OF WRITING』,2012)

(https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/qo9edr0000005dbr-att/MOW_9.pdf)

駒沢大学 小林正人研究室HP 「レジュメに必要なこと」

(<https://www.komazawa-u.ac.jp/~kobamasa/>)

ご清聴ありがとうございました！

4F@ラボ 学習相談デスク

- ・レポートや卒論を中心とした学習相談・支援業務を担当
- ・開室時間
→平日12:00-19:00

おまけ・・・東京都内のサリサリストア (東京都清瀬市)



引用元 (<http://www.wow-sarisari.shop-site.jp/>)